

1. 調査目的等

中学校全学年の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善、及び進路指導に役立てる。

2. 学校ごとの指標

入学時の学力を維持・向上させ、全学年が県平均(偏差値50)以上を目指す。

3. 指標にむけての取組

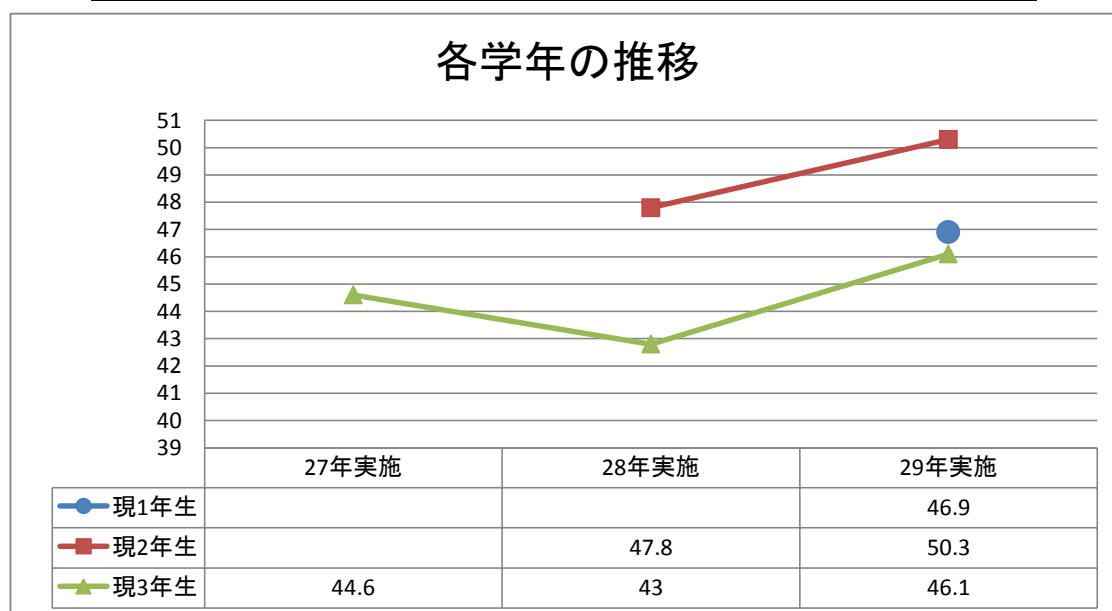
- ・全教職員による共通理解を基にした学習指導体制の構築と基本的な生活習慣・学習習慣の定着。
- ・各学年の実態に即して、ふくおか学力アップ推進事業に係る非常勤講師・課題対応非常勤講師等を活用し、少人数分割授業・習熟度に応じた個別指導を実施し、基礎的・基本的な知識・技能の習得。

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50=Cに対して)

年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
本校(A)	47.8	47.4	46.7	47.2	47.8
嘉麻市(B)	45.6	46.6	47	47.3	47.9
(A)-(B)	2.2	0.8	-0.3	-0.1	-0.1
標準偏差値との差 (A)-(50)	-2.2	-2.6	-3.3	-2.8	-2.2

各学年の推移



5. 各学校における分析

【1年生】国語は県平均に近いが、その他は下回っており、特に理科に課題がある。

【2年生】全体的には入学時よりも伸びを見せ、県平均を上回った。数学、社会、理科については偏差値で2～3ポイント上昇した。

【3年生】2年時に下降したが、今回は入学時を上回った。課題であった英語が偏差値で7ポイント上昇した。

〔取組内容の是非〕

・2年生の数学は生徒のつまづきを早期に発見するために、可能な限り毎時間確認テストを行った。さらに中テスト(と数学科では呼んでいる:最初に少し学習させてからテストを行う)を行い、不合格者(80点以下)には昼休み、放課後で指導を入れ、全員合格まで取り組んできたことが偏差値アップにつながった。

・3年生の英語は毎時間、3人の教員で分割授業(習熟度別学習)を行った。ほぼ毎時間単語テストを実施し、定着の厳しい生徒についてはTT教室で2人の教員がマンツーマンの状態で教科書の内容を指導したことが偏差値アップにつながった。

〔家庭学習〕

・部活動を19時に終えて帰宅した後、自学ノートでその日の復習を行い、教科ごとに出された課題プリント・ワークに取り組む等、時間はしっかり確保して行っている。

・自分自身で学習することが厳しい生徒は教科担任が個別の課題を課すことにより、毎日提出できている。

・定期考査前には「安心メール」で考査の日程や家庭学習に取り組むよう、保護者に協力を求めている。

6. 各学校における今後の取組

・基礎基本の定着を図るため、前時の復習や小テスト、単元テストなどきめ細やかな指導を行う。

・教師間の協力的な指導を基盤に、計画的な宿題・自学ノートの取組でその徹底を図る。具体的には、本校で取り組んでいる1年90分、2年100分、3年120分以上の家庭学習時間を確保できる程度の課題を提示し、85%～90%の生徒が確保できたと答えるようにする。課題未提出の生徒がいた場合は教科担任・学級担任・部活動顧問が連携して、その日のうちに提出させる。

・週末課題については、土曜・日曜とも上記の時間プラス60分とし、5.で示したように自分自身で学習することが厳しい生徒は個別の課題を課すことにより、月曜日の提出率を90%以上にする。

・予習の推進に関しては、今年度の学力実態から学習内容の定着(復習)に重点をおいており、推進するまでには至っていない。今後、学力向上委員会で論議を深めていきたい。

・学校の教育活動全体に「かく活動」を位置づけ、思考力・判断力・表現力を高め、記述式問題や知識・技能を活用した問題に対応できるようにする。

・国語科では、ふくおか学力向上推進事業に係る非常勤講師を学期ごとに学年に割り振って抽出授業を行ったり、英語科では少人数分割授業や習熟度別分割授業を行っていく。数学科では全学年TT授業を行う。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

嘉麻市学力向上推進プランに基づく学力向上検証改善委員会を開催し、有機的に機能させる。そのために、短期検証改善サイクルの実施状況を把握し、好循環に向かうよう適時性のある指導を継続する。

嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、嘉麻市研究指定校事業を展開する。